

平成26年の輝かしい新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

地域住民の皆様をはじめ、関係機関の皆様には、平素より消防行政各般にわたり円滑な推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を顧みますと、9月及び10月に発生した台風18号、26号による豪雨で、伊豆大島を始め全国各地において、多くの人命と貴重な財産が失われるなど、甚大な被害が発生した1年となりました。

島根県西部でも、未曾有の豪雨により、死者・行方不明者の発生や集落の孤立、家屋被害など住民生活に大きな影響を及ぼし、自然災害の恐ろしさを身近に感じるとともに、改めて日頃からの災害に対する研修や備えをいただくことの重要性を認識したところであります。

また、長崎市で発生したグループホーム火災、京都府福知山市での花火大会火災、福岡市博多区での整形外科火災では、多くの尊い生命が犠牲となりました。

このように安全を脅かす災害の発生は後を絶たず、住民の皆様の防災に対する関心は一層高まっており、消防に寄せられる期待と責任にこたえるべく、危機管理体制の充実に全力をあげて取り組んで参ります。

雲南管内の昨年の災害出動は、火災出動が49件、救急出動が2,233件、救助出動が66件であり、火災は前年比で25件と大きく増加し、この中には住宅密集地において複数の建物が焼損した火災もあり、引き続き火災予防の啓発及び広報に努めて参ります。

また、救急出動は44件増加し、過去2番目に多い件数となり、こうした救急需要の増加及び救急業務の処置拡大等の高度化に対応すべく、救急救命士の育成を始め、救急救命知識・技術の習得を推進します。

昨年の3月に、三次市まで開通した尾道松江線への救急出動は10件でした。今後、予想される大型観光バス等の事故による多数傷病者の対応について、的確な救助活動が執れるよう更に訓練を重ねて参ります。

今後も、消防行政が直面している様々な課題に適切に対応し、住民の皆様には「安心・安全」を提供するために、さらなる人材の育成と組織の活性化を図るとともに、消防団を始め関係機関との連携を図って参りますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様のますますのご健勝、ご多幸、さらには災害のない平穏な年でありますことを心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

救急救命機器が寄贈されました

10月28日（月）、公益社団法人雲南法人会から当消防本部へ救急救命機器が寄贈されました。救急救命機器は、心肺蘇生法講習会用の訓練人形2体で、地域住民への応急手当の普及啓発活動に活用させていただきます。三刀屋交流センターで行われた記念式典において、内田政己青年部会部会長及び糸原恵子女性部会部会長から障子弘敏消防長に目録が渡されました。



目録贈呈の様子



心肺蘇生法講習会用の訓練人形

4月は「たき火」火災防止月間です

火災・救急・救助統計

出動件数

平成25年1月1日
～12月31日

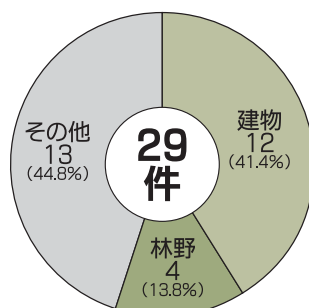
火災出動

49件

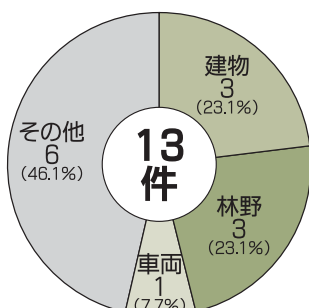
平成24年

24件

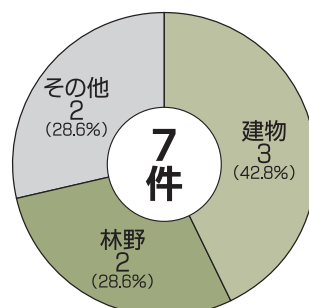
雲南市



奥出雲町



飯南町



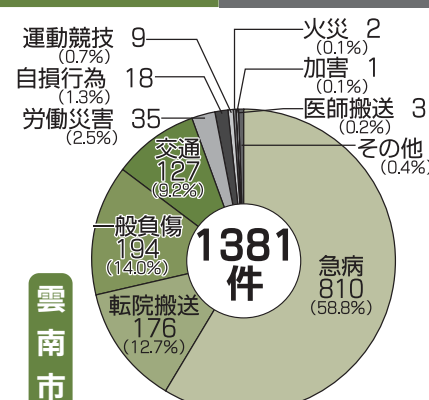
救急出場

2233件

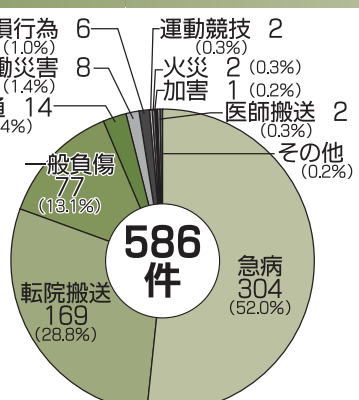
平成24年

2189件

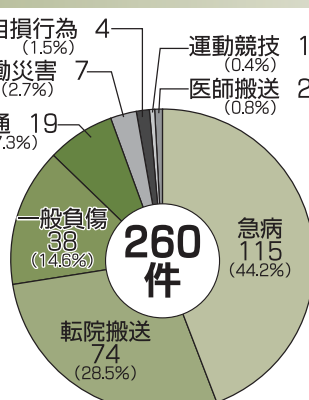
雲南市



奥出雲町



飯南町



管外へ6件出場

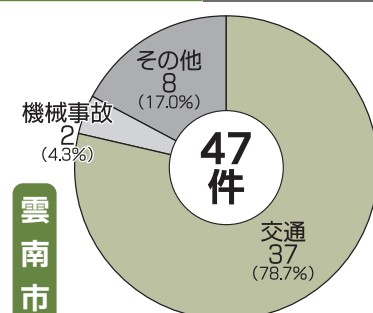
救助出動

66件

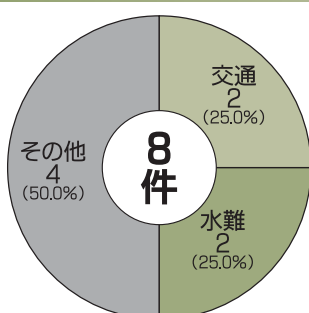
平成24年

70件

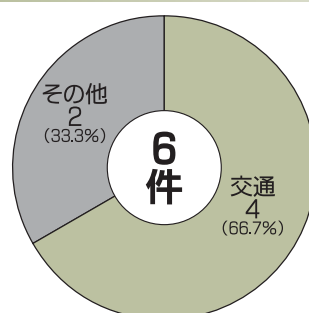
雲南市



奥出雲町



飯南町



管外へ5件出場

平成25年中の火災は49件発生し、昨年より25件の増加となりました。これは、枯草焼き、寄せ焼きによる火災が多発したことによるものです。火を取り扱う時は、その場を離れない、消火器具を準備するなど火災予防を心がけましょう。

救急件数については、昨年より44件増加しました。このうちドクターヘリへの搬送は195件でした。

救助件数については、昨年より4件減少しました。これは交通事故の発生件数が減少したことによるものです。

「消すまでは 心の警報 ONのまま」

春の火災予防運動3月1日～7日（奥出雲町4月6日～12日予定）